

栃木県 矢板市商工会

## 「お笑いのまちづくり」推進 文化財の建物で落語の会を楽しむ



「お笑いのまちづくり」を推進する商工会が、「伝統的なたたずまいは江戸情緒を伝える古典落語にふさわしい」と市教委に要請したもの。

矢板武記念館（市指定文化財）で、商工会と市教委の共催による「古典落語の会」が開催され、歴史ある建物の中で約六〇人が伝統的話芸を楽しんだ。

会場は、同館の母屋上座敷のふすまをはずして広げた三十畳分の畳敷き和室。演じたのは、三遊亭円楽さんの孫弟子にあたる花楽京、鳳志さんの二人。花楽京さんは「落語は目配せ、しぐさや伝わりが大会場は向かないし、三畳間でもできない。ちょうどいい広さ」と、矢板武記念館と語り、「美人が多くいると集中できないし、いなくても張り合えない。この人たちがいい」と続けて、聴衆の笑いを誘った。

同館は、庭園に樹齢一六〇年のシダレザクラがある本格的日本家屋で、幕末・明治には郷土の偉人・矢板武が住み、後に市に寄贈されたもの。これまでも茶会、夢の会などをはじめ、学習会や小学校の夏休み「寺子屋」会場など、さまざまに利用されてきた。

## 三重県 伊賀市商工会女性部 防災マップを配布

土砂崩れや河川の氾濫などが起きやすい危険箇所、地域ごとの避難場所などが記載されている。昨年九月ごろから全会員に協力を募り、危険箇所なども地区ごとに調べたという。

商工会女性部（大田節子部長）は、旧阿山、名賀両郡の地域ごとに災害時の危険箇所や住民を支援する事業所の所在地などを記した防災マップを作製。二月に全会員約一〇〇〇事業所に無料配布し、地域住民らの目に付きやすい場所に掲示した。マップはA3サイズの手書きで、食料品店や工務店、美容室などの協力事業所と、

「地域防災協力店」のステッカーを住民に目立つよう店頭などに張り、災害時に救援物資の供給や人員派遣、機材の貸し出しなどを分担する。

女性部では、「日ごろから防災意識を高めていかなければ。いざというときには住民らにこの冊子を役立ててもらいたい」と防災の重要性を語った。

徳島県 美郷商工会

## 薬草に学ぼう！ 地域づくりの可能性探る



商工会は二月二十四日、吉野川市美郷のふるさとセンターで、薬草に詳しい村上光太郎・崇城大学薬学部教授を講師として、地域づくり講演会「薬草に学ぶ健康の知識」を開催した。

商工会ではこれまで国や吉野川市の補助を受け、特産品の開発、体験型観光などを中心に地域振興活性化事業を実施し、特



産品の梅などを生かした新しい「美郷ブランド」の育成に力を入れてきた。今回の講演会は、新たに薬草を地域づくりに生かすための取り組みとして開かれた。

村上教授は徳島新聞の暮らし面で「薬草を食べる」を連載中で、さまざまな薬草を取り上げながら効用を説明。「美郷のように植物の豊富な場所は、薬草を生かした地域づくりができる。薬膳料理や薬草風呂を生かした滞在型の健康村構想など可能性は幅広い」と語った。参加した住民ら約八〇人は、薬草を活用した新たな地域活性化に向けての知識をしっかりと学んでいた。

高木義夫経営指導員は「美郷にはさまざまな薬草がある。薬草を豊かな自然とともにPRして、特色ある地域づくりにつなげていきたい」と抱負を語った。

島根県 川本町商工会

## 食と健康で街づくり 地元食材で勉強会

商工会は三月十四日、町内の悠邑ふるさと会館で「健康の食ブランド創出勉強会」を開催。地元食材を使った「特産品予備軍」が展示され、六〇人の参加者が試食しながら商品化の可能性を検討した。

商工会が、健康と食の町づくりを進める同町の取り組みを盛り上げていくことを企画した。町内の飲食店や食生活改善推進委員、食品会社などが地元食材を生かした三五点を出品し、勉強会では、「ビジネスチャンスは食と健康がキー

ワード」と題して、料理研究家の中山桜甫さんが講演した。

この日出品されたのは、商品化前の「イノシシの生姜煮」「フキノトウのうま煮」「あんぼ柿のあん入り餅」「エゴマ入りパン」や、すでに販売されている「鮎の姿焼 きせんべい」などさまざま。商品化の参考にするため、来場者が味や価格設定、商品性など六項目を評価した。

建築会社社長・岡田耕作さんは「住民の意欲の高まりを感じる。新たな特産品が生まれると思う」と期待を話した。



富山県 小矢部商工会

駐車位置わかりやすく

毎月入れ換えの色分け看板を設置



市の中心部の三商店街（中央通り、越前町、石動駅前）に三月八日、道路両側の駐車位置をわかりやすく示す看板が設置された。

同地区は、県道沿いで住宅が密集しており、駐車場の少ない店が多いことから、商工会などが駐車禁止緩和を要望していた。

小矢部署と県警交通規制課は、市民の利便性向上のため昨年末に規制を見直し、県内で初めて駐車位置を毎月入れ替える路上駐車方法を採用。道路両側の駐車禁止標識に、「偶数月を除く」「奇数月を除く」と記した補助標識をつけた。しかし、わかりにくい表現のため十分理解されず、道路の両側に駐車されることが多かった。

そのため、商工会と商店街、町内会が協力し、看板（縦七〇cm、横二五cm）二九枚を作成し、道路両側の街灯に取り付けた。看板は、奇数月は青、偶数月はえんじ色に分け、偶数月は「二、四、六、八、十、十二月はごちら側に駐車できます」とひょうひょうに、わかりやすい表記を採用した。

商店主らは、「看板の設置で多くの人が商店街街を利用し、まちの活性化につながれば」と期待を語っている。

熊本県 山江村商工会

村内企業の紹介冊子を無料配布

商業も地産地消で

商工会（日熊正守会長）は、地元住民に村内の企業を利用してもらううえで、会員企業を紹介した暮らしの



便利帳「山江みせたび」を作製し、村内全世帯に約一二四〇冊を無料配布した。

同商工会は、冊子の作成と併せ、ホームページの会員紹介もリニューアルした。「これまで地元住民への周知不足もあったが、村内の企業をもっと知ってもらい、『商工業の地産地消を回りたい』と期待を語った。

又業の三九会員の事業内容をカラー写真や地図を添えて紹介。商品の割引、抽選などのクーポン券もついている。巻末

には、村役場での各種手続きに必要な提出物の一覧や、「生活便利ダイヤル」「困り事相談電話表」も加えた。

会員の約三割を占める建設業は公共工事が減少し、商業も隣接する人吉市などに消費者が流れているため、危機感がある。そこで、住民に「村内の企業でもさまざまな需要に応えられる」とアピールすることにしたもの。

沖縄県 伊江島村商工会女性部  
観光客を草花で歓迎  
土作り準備



女性部（知念厚子部長）は二月十二日、花いっぱい運動の一環で部員一三人が

湧地の残土置き場でプランターに使う土作りをした。

に開催される「第一四回伊江島一周マラソン大会」の前に、伊江港周辺に並べられる。

宮城組（宮城義男代表）から譲られた土に、腐葉土や鹿沼土などを混ぜて二〇〇個のプランターに入れ、スプレーで「商工会女性部」と文字を吹き付けて仕上げた。

知念部長は「マラソン大会参加者や五月の連休まで訪れる観光客を、プランターに咲き誇る草花で歓迎したい」と語った。

広島県 五日市商工会

学生がまちの活性化策

「さくらパレード」でバナーを採用

広島工業大学の学生らが三月八日、五日市中央の商工会で商店主らに地元のコイン通り商店街の活性化策を提言した。

商店街に活性化のアドバイスをしている同大環境学部の菅原辰幸教授が「学生の斬新な発想を取り入れてはどうか」と持ちかけたのが始まり。一〜三年生有志約五〇人を八チームに分け、一月から周辺を歩いたり、会議を重ねたりしながら案を練り、建築やデザインを学ぶ若い感性で考えた町おこしを披露した。

今回発表されたプランは、①道路と商店を区切る花壇を改良し、ラティスを立てて鉢植えをぶら下げる、②テーブルやイスを置いて休憩スペースにする、③街灯をカラフルに変える、④店のシャッターに子供に絵を描いてもらい統一感を出すといったもの。商店主からは「スト面に」との質問も出された。

この日は、三年生の横見瀬孝之さんらが提案したPR用のバナーを、毎年商店街で行う「さくらパレード」で飾ることが決定。「文字よりも絵でアピールしたことが評価された」と、横見瀬さんは採用を喜んだ。



商店街は、このプランの具体化に向けて検討会を開き、コイン通り街づくり委員会の橋本哲夫委員長は「魅力ある町にするために若い人たちのアイデアをぜひ生かしていきたい」と期待を語った。



## 鹿児島県 大隅町商工会 「がんばる」弥五郎どん商学校

合併後は分校開校でさらに前進

曾於市・大隅町商工会「弥五郎どん商学校」で生徒となつて学んだ特産品開発コース一五人、街づくりコース三三人の商工会会員が、活発に商品開発や販売に乗り出している。

特産品開発コースは、地場資源産品調査を実施して一五品目を選び、地元食品加工会社と連携して、昨年八月に焼酎ゼリー、カボチャのふくれがし、じゃがいもだんごを開発。十二月には紫イモモチ、イモ大福、特製スイートポテトを完成し、特産品販売施設「やごろう農土家市」で販売を始めた。街づくりコースは、商店街空洞化対策として「まちの駅」導入の研究を進め、旧国鉄駅舎の一部を利用した交流拠点づくりをめざしている。

「弥五郎どん商学校」は、自分たちで町の活性化を図ろうと一昨年六月に開校したもので、四月の末吉・財部町商工会との合併後は、両地域に「分校」を検討中。大隅町商工会経営指導員・中村直人さんは「旧三町が地域の力を合わせて街の賑わいづくりに取り組み、新しい地域と商店街の活性化に貢献できれば」としている。

## 宮城県 加美商工会青年部・女性部

### 楽天選手がトークショー

子どもたちに上達のコツを伝授

このほど、商工会青年部・女性部主催の新春講演会が同町のやくらい文化センターで開かれた。



プロ野球・東北楽天イーグルスの選手らがトークショーを行い、少年野球チームに所属する子どもたちや家族連れ約四〇〇人が参加した。楽天の関川浩一、鷹野史寿、塩川達也（東北福祉大出身）の各選手、楽天チームアドバイザーのマーティ・キーナート氏、ソウル五輪のシンクロナイズドスイミング銅メダリ

スト・田中ウルヴェ京子（みやこ）さんも参加し、選手への質問コーナーや握手会、色紙やグッズが当たる抽選会も行われた。四人のサイン入りバットが当たった色麻町の笠松スポーツ少年団の浅野智紀君は、「練習の参考になった。バットは家で大切に飾りたい」と笑顔で話した。

## 茨城県 真壁町商工会

### アイデアすいとんコンクール

名物料理は素材な味で

商工会主催の「アイデアすいとん実技審査」が同町塙世のJA北つくば真壁支店多目的研修センターで開かれた。

町では、古い町並みの散策、ひなまつりなどのイベントが好評で、観光客が年々増えているが、名物料理がなかった。商工会は、二〇〇四年度に「名物づくり」研究のため特産品開発事業委員会（柳田隆委員長）を発足させた。名物料理として、地元の食材を生かし町のイメージに合った素材なすいとんを選び、アイデアを公募していた。

三五点の応募のうち書類審査で九点に絞られ、七人がこの日の審査に参加、味、盛り付けなどに腕を競った。大賞に選ばれたのは、小川町百里の自衛官・糟谷勉さんの「野菜たっぷり山かけ蕎麦すいとん」。小麦粉とそば粉で作ったすいとんに鶏肉、ウズラの卵、ヤマトイモなど一四種類の野菜を加えて、あっさり味の一品に仕上がっている。



地元出身の糟谷さんは「祖母に作ってもらったすいとんを工夫した。家庭の味で真壁の観光に役立てたい」という気持ちで応募したが、大賞に選ばれてとても嬉しい」と受賞の喜びを語った。

ひなまつり期間中の二月二十一日には旧真壁郵便局でアイデアすいとんの試食会が行われ、柳田委員長は「観光客の皆さんに、地元の食材をふんだんに使ったすいとんを食べてもらいたい、町の名物料理に育てたい」と話していた。

## 福島県 表郷村商工会青年部・女性部 いつまでも郷土を愛して

卒業生に絵はがきを送る

商工会（滝田知守会長）青年部（沼田浩一郎部長）、女性部（小坂井幸子部長）は三月六日、表郷中（佐藤正弘校長）卒業生八三人全員に、「いい日旅立ち」記念として、絵はがき六枚セットを贈った。



贈呈式は、会長、両部長と事務局の鈴木早智子さんが同校を訪れ、卒業生代表の白井一弘君、菊地裕介君、中村真美さん、鈴木眸美さんに手渡され、白井君がお礼を述べた。

絵はがきは一昨年、青年部と女性部が郡山市の画家・橋本広喜さんに絵を依頼して製作。まちの名所・旧跡を水墨画にした「庄司戻しの桜」「ビヤッコイの自生地」「関山と田園風景」などの図柄で、一セット五〇〇円で販売している。商工会では、「生徒にいつまでも郷土を愛する気持ちを忘れないでほしい」と語っている。

## 埼玉県 越谷市商工会青年部

### 鴨ネギ鍋で地域おこし

新名物が地元で凱旋

商工会青年部（中島高明部長）は三月十一日、「地元の食材を使って地域おこし」と考案した「鴨ネギ鍋」五〇〇人分を作り、市内のふれあい広場で市民らに振る舞った。

県内でも有数の産地として知られる地元産のネギ、シイタケ、にんじん、サトイモなどに、市内にある埼玉鴨場にちなんだ鴨肉を加えて煮込んだもの。

青年部が中心となって考案した鍋であるため、市内で扱う飲食店はなく、普段は食べることができない。一般に振る舞われるのは、今年一月和光市内で行われ、同市が優勝した「彩の国鍋台戦」以来。この日は新名物の「地元凱旋」に多くの市民らが集まり、地元の味を楽しんだ。

同市内に住む田中照子さんは、「地元の野菜を使っているのが一番いいし、味もおいしい」と感想を話した。